ーリエピアは12月に最高で6, 7, 8, 9には採集されずミヤジマも12月に最高を示したが4, 5, 6, 7, 8, 9, 10, 11の各月には採集されなかつた。ヤマトは9月に初めて採集され12月迄採集された。ムロトは4月と11月にそれぞれ1匹ずつ採集されただけであるので季節消長については何とも云えない。(鹿大・衛生)

されたものに概ね一致している。尙コウモリは、イエコウモリ114, コキクガシラコウモリ27の計141匹獲えたうち、コキクガシラコウモリから *T. toshiokai*, *T. uchidai* と各々1匹宛を採集した。(宮崎県衛研)

✓ 大隅地方の恙虫 (第3報) 計測値及びその比較について: 小浜哲郎 Obama, T.: Studies on tsutsugamushi in Osumi districts (Report 3) Standard data and comparative relativities

1955年3月から1957年4月迄約2年間鹿児島県大隅地方に於て捕獲した恙等から5属18種2414匹の恙虫を得たので、之等の計測値を比較した。個体数の少い種類を除き、*T. scutellaris*, *T. himizu*, *T. fuji*, *T. kuroshio*, *T. japonica*, *T. kitasato*, *T. murotoensis*, *G. ogatai*, *G. saduski* に於ける平均値及びその信頼限界(信頼度95%)を出した。*T. scutellaris*, *T. fuji*, 及び *G. saduski* は当地方のものは他地方のものより全体的に小型であり、特に *T. fuji* はその差が大である。

(鹿大・衛生)

✓ 宮崎県の恙虫 (第2報) 野鳥類の恙虫: 岩倉利明・笹原徹 Iwakura, T. & Sasahara, T.: On the trombiculid mites in Miyazaki Prefecture (II) The trombiculid mites collected from birds

昭和29年12月より昭和34年3月に至る狩猟期間中に、県中部の西都市周辺を主とし、更に宮崎市周辺、東諸県郡、児湯郡米良及び県南部の串間市等で、総計30種168羽の野鳥類を空気銃で得た。このうち12種50羽より5属8種の恙虫幼虫を431匹採集した。その内訳は、*T. scutellaris* 3, *T. kansai* 1, *E. miyagawai* 25, *N. asakawai* 178, *N. posekanyi* 11, *M. todai* 157, *M. smadeli* 2, *Ti. sugiharai* 54で、アオジ・ミヤマホホジロ・ジョウビタキ・ルビタキ等には恙虫の種類及び数も比較的多かつた。このうち、ルビタキ1羽に附着していた2匹の *M. smadeli* は西日本で初めて見出したものであり、又 *Ti. sugiharai* は、私共が九州地方で初めて採集し先に其の形態の詳細を補遺したが、其の後ミヤマホホジロ・ジョウビタキからも採集した。其の他 *E. miyagawai*, *N. asakawai*, *N. posekanyi*, *M. todai* 等の分布、宿主等は、九州地方で現在迄種々報告

✓ 琉球産コウモリから *Whartonia* 属ツツガムシの発見:

川島健治郎・加茂甫 Kawashima, K. & Kamo H.: Discovery of the genus of bat-chiggers, *Whartonia* Ewing in the Loochoo Islands

我々は、九大農学部所蔵カブラコウモリ *Hipposideros purpis* (1937年、琉球石垣島、元石垣島測候所長、岩崎卓爾氏採集) の外部寄生虫を観察する機会を得た。此の中に、属 *Whartonia* に属する新種と思われるものを発見したので、ここに東洋区の北部に於ける産地を報告し、その形態の概略を述べる。

属 *Whartonia* は *Hannemania nudosetosa* Wharton, 1938 を模式種として、幼虫の背甲板上に前縁中央突起を欠くとの理由から、属 *Hannemania* から分離して Ewing (1944) により設定されたものである。本属は、気門、気管、背甲板上の1対の前中毛、鋏角第2節の歯列などを持つ事により特徴づけられている。既知種の分布は広く、新北区から2種、新熱帯区から1種、オーストラリア区から1種、エチオピア区から1種、東洋区から2種が知られているが、未だ旧北区からは発見されていない。琉球種の形態的特徴: 体は比較的大きく、完模式標本で長さ1450 μ , 幅770 μ , 鋏角第2節には、11~12個の歯が並び、基部のもの程、順に大きい。触肢の毛の配列は B/B/B,N,N で、爪の先端は3個に分れる。ガレア毛は分枝がない。背甲板は大体長方形で横に長く、後隅角が鋭角をなして突出し、そこに側毛を生ずる。感覚器は毛状で分枝がない。胴部の毛は不規則な分枝を有し、背面の配列は、2, 6, 6, 6, 6, 4, 5, 4で総計39本、腹面には約72本を有する。本種に最も類似せるものは *W. penthetor* であるが、触肢毛式が b/b/B,B,B なる事、触肢の爪が2個に分れる事、背甲板の後隅角は丸味をおびて鈍角をなす事、胴背毛の配列が2, 9, 7, 12, 8, 9, 6, 3なる事などにより明瞭に区別出来る。又、本種の宿主は八重山群島特産で分布が限られているなどの事もあり、我々は本種を新種とみなし、その名をコウモリの採集者岩崎卓爾氏に奉獻して *Whartonia iwasaki* と命名する予定で、詳細は近刊の Kyushu J. Med. Sci. に発表する。

(九大・寄生虫)